



校異
首書

古傳日記

全

2
3
4
5
6
7
8
9
30
1
2
3
4
5
6
7
8
9
40
1
2
3
4
5
6
7
8
9
50
1
2

校註土佐日記序

世學者讀土佐日記者或以紀大夫カ劫セシ於海賊論封建制者有之或併古今集大井川二序論文章之法定於大夫者有之或謂是紀行也非日記也且以此書為日記始者非矣此等立論其言人而殊余則獨嘆晁卿揆天之章在我東方實為千古佳話然微此記誰聞其詳卿亦得大夫渺茫望海之恨或不

齋是卿雖不得歸猶歸也。藤翁在時每過余而飲必及此事矣。初翁校注之也。余聞之其家人翁起必曰日記坐必曰日記出入飲食無不言日記日記者乃知翁畢生之志在茲雖有志非得其助不易於潰成也。翁則前有本居老人挽之後有大平有信猛彦諸子推之。今又其門人為先師竭力校梓遺書使公羽之為大夫盡心者傳千歲而不亡是

翁雖歿猶不歿也。余老儒也。常訓人以忠孝之道。故嘉其事。序而道之。公羽名磯足。尾張國中島郡起驛人。文政紀元戊寅冬十月。

尾張 秦 鼎撰



尾頭備書



わが身はまじりてさへもあはれなるがまはれは
ちかき心とてさへもあはれなるがまはれは
あはれなるがまはれなるがまはれなるがまはれ
あはれなるがまはれなるがまはれなるがまはれ
あはれなるがまはれなるがまはれなるがまはれ
あはれなるがまはれなるがまはれなるがまはれ
あはれなるがまはれなるがまはれなるがまはれ
あはれなるがまはれなるがまはれなるがまはれ
あはれなるがまはれなるがまはれなるがまはれ
あはれなるがまはれなるがまはれなるがまはれ

子なき摺巻におきむとをさしひおらうと
あめいしゆにもあひしうむくまはせはそを考へ
くむくきふは年又師の言をまぬめむ
さかんとせしほふ人くろ考もあはがらさ
くおもむきふむふもたしれいさうさ
可なりしと追考りしなり

市恩摺巻

此亦起る事あるれく事ありしよん
いやがれふいふもまもむむかきか
まをくしき物しをこにいひかしあひ女の
かけるまかにそれらしてあせむは
雄くしきすぐりて何れ物終るも
ふく似むむのかきかふししめだま
ぬまうとわあうたに今世ふるが終るは孝吟

箱の抄と時道との階位といふものゝ事本と二本
ある小本の一々ある一づつ此ことなる所ある
よきあるもとある一なり 依名ももつたより
いづれもいふにうがき一をききいふにうがき一
きき一き 依名ももつたより 依名ももつたより
二本ふかむが 依名ももつたより 依名ももつたより
ゆるを本抄と一いふにうがき一をききいふにうがき一

中間ナカラまゝカカラ侍小志一いふにうがき一をききいふにうがき一
子たる一布衣の古抄のいふをききいふにうがき一
免するももつたより 依名ももつたより 依名ももつたより
志き説をけい免日トモカラが侍のさとりやききいふに
か一ら書よつたより 依名ももつたより 依名ももつたより
いふにうがき一をききいふにうがき一をききいふにうがき一
とよ一いふにうがき一をききいふにうがき一をききいふにうがき一

石事フルのゆゑにコトなごころしくいふる文よ
 ぞくくくくくくくも何ぬど初まぬび乃
 を免ふがゆゑきぬ

藤系 残是

申すに、つづつゝもたたることあり
 ぶつとせしむるもたたること
 のゆゑに、つづつゝもたたること
 あり、つづつゝもたたることあり
 あり、つづつゝもたたることあり

〇10月を以てより、つづつゝもたたることあり
 田舎のものと、つづつゝもたたることあり
 〇11月を以てより、つづつゝもたたることあり
 又、つづつゝもたたることあり
 〇12月を以てより、つづつゝもたたることあり
 〇1月を以てより、つづつゝもたたることあり
 〇2月を以てより、つづつゝもたたることあり

土佐ねぶ記

貫之延長八年任土佐守兼平四年と五年の任限満て系小
 帰らむ時の南海船路の日記なり

をとおもすね、拙とたまもすこと日記といふ物と女もして
 せんそすなむ、拙女もしてらるんそそまのし拙ナシ
あり附来いませぬ十二月の廿日あちりむと日の目乃いぬの時小かどでも。
 ちよよいさう物小かきけくあ人け縣この田とあ
 又とせえて、係のあもも為終終解解由由なむ
 とて住び館たらあむいぬのいさむ小小いさむ小

この書は、古今の俗俣が、
いかに多岐にわたるの、
ことを、此の書に、
記し、その、
要を、これに、
示し、

いかに多岐にわたるの、

其の書は、
附く、
人の、
果ては、
しらぬ、
とあり、
具

素。日。あり。あり。日。あり。行。あり。一
又附。と。あり。と。あり。抄。素。今。の。一

廿二日。お泉のくふすまで。たゆらう。おと。孫。ついた。り。
抄。素。和。泉。ふ。す。で。

と。た。ゆ。ら。う。と。孫。つ。いた。り。 と。あり。今。附。と。あり。 **お泉のくふすまで。** **たゆらう。** **おと。** **孫。** **つ。** **いた。** **り。**

上 **たゆらう。** **おと。** **孫。** **つ。** **いた。** **り。**

中 **たゆらう。** **おと。** **孫。** **つ。** **いた。** **り。**

ふくと六國府中

おふりそと、おふりそと、
よして

廿三日。お原のくふすまで。たゆらう。おと。孫。ついた。り。
抄。素。和。泉。ふ。す。で。

と。た。ゆ。ら。う。と。孫。つ。いた。り。 と。あり。今。附。と。あり。 **お原のくふすまで。** **たゆらう。** **おと。** **孫。** **つ。** **いた。** **り。**

上 **たゆらう。** **おと。** **孫。** **つ。** **いた。** **り。**

中 **たゆらう。** **おと。** **孫。** **つ。** **いた。** **り。**

下 **たゆらう。** **おと。** **孫。** **つ。** **いた。** **り。**

上 **たゆらう。** **おと。** **孫。** **つ。** **いた。** **り。**

中 **たゆらう。** **おと。** **孫。** **つ。** **いた。** **り。**

下 **たゆらう。** **おと。** **孫。** **つ。** **いた。** **り。**

古ハハ母ニ云ハルルトイフを
達トモニ洋紙をおきて
小舟の傍凡の目ニ着技
とせしむる也

あゝねかのーろのおをち
抄ノ括のまのいしどど
さ小ハリトハこれの文ハ
よやくねいひまのるれど
助のるるいしどど
猛夫云追考也

守ハハ中ニカハルル新社
の古体ニ注トモあり
が

あゝねハハ新社ニあり

坊ハ日洋紙一丁のたけいけーにいませり附新同
まのたけ

ひけーにいませり上あゝねハハ紙下もわさるで童碑知

建テ一文イナモシまのいしどどモシ十文モシまの

ふして附ナシあゝね

坊ハ日まのたけ一丁のたけいけーにいませり抄ニ
附素今のこ

よばれていませり抄ニ
附素今のこ日まのたけいけーにいませり

あゝねハハ紙にてあゝね附
おとあり抄素今のこ

坊ハ日まのたけいけーにいませり抄ニ
ありあり素今のこあゝねハハ紙

あゝねハハ紙にてあゝね抄ニ
ありあり素今のこ

坊ハ日まのたけいけーにいませり抄ニ
ありあり素今のこ

あゝねハハ紙にてあゝね抄ニ
ありあり素今のこ

あゝねハハ紙にてあゝね抄ニ
ありあり素今のこ

あゝねハハ紙にてあゝね

あゝねハハ紙にてあゝね

あゝねハハ紙にてあゝね

あゝねハハ紙にてあゝね

坊ハ日まのたけいけーにいませり
たけいけーにいませり
あゝねハハ紙にてあゝね
たけいけーにいませり

主佐五人様を稱すは是はけいふ
の古の公府より今の月一里
はすなりお初めのことしめてき
らるへははしり歌かして大はう
南入二里たうこととて友も守
るはた抄り況ん

いそぎもあつたころに
うすうすといふては
あつたころに

用をせむはをりては
いそぎもあつたころに
うすうすといふては
あつたころに

かたはあつたころに

清くもつたふんぬ人のものも
べーやうくういしんあのおも
まねのものもすれども。抄
ふんげも。幸までいでふなり

廿七日。大津より浦戸とて。漕い
抄かすものとあり

附素今のこと。京ふて。やも
女。抄うられ。あり附素今のこと。あに

志すふえりにうせふうらど。抄
いそぎもあつたころに

抄附ふこととあり
まふこととあり

ウシタコ

抄うられ
あり附素今のこと

あに

抄何うもいふ附なること
いそぎもあつたころに

いそぎもあつたころに

いそぎもあつたころに

附なること

いそぎもあつたころに

附なること

あつたころに

いそぎもあつたころに

あつたころに

いそぎもあつたころに

あつたころに

あつたころに

土佐日記

四

くち細く六細をりちか後粘
ふていんたさの引細を流
入してあひむかを引あぐ
るる人々のやうにせよ
此の奇を流の目も
おわしたるわれよやく
之師のまうる十も
い

まきおひ来て。抄まきけりあり附金のこと
いづれおてはまきれが附
まきおひ来て。附かりおての次よまきけりあり
まきおひ来て。附かりおての次よまきけりあり
まきおひ来て。附かりおての次よまきけりあり
まきおひ来て。附かりおての次よまきけりあり
まきおひ来て。附かりおての次よまきけりあり
まきおひ来て。附かりおての次よまきけりあり
まきおひ来て。附かりおての次よまきけりあり
まきおひ来て。附かりおての次よまきけりあり
まきおひ来て。附かりおての次よまきけりあり
まきおひ来て。附かりおての次よまきけりあり

甲斐のまき今集ひ
をまきおひ来て
おひ来て
おひ来て
おひ来て
おひ来て
おひ来て
おひ来て
おひ来て
おひ来て
おひ来て

柳まきおひ来て
まきおひ来て
まきおひ来て
まきおひ来て
まきおひ来て
まきおひ来て
まきおひ来て
まきおひ来て
まきおひ来て
まきおひ来て
まきおひ来て

土佐日記

。五

つり附抄おくら

大漆とさしてあつたゆへ
こを略するにさしてさしあ
つてこをさしあつたお小八
さこえぬをささるけれど
附連風は似せぬをさし
撫ねるの方さしつてさ
めてさつてさつて
〇とさくのとさくさつた
のもねさつてさつたさつた
ねさつたさつたさつた

こと人とおひきこむ

廿八日。うらうらよりだいで。大漆とらげあひさふ。あ
くのちね子。ふは千代。さけよきこのどもとて身て。お小
いまた。あひさつてさつてさつて

廿九日。大漆とらげあひさつて。さつて。さつて。さつて。さつて。
さけよきこのどもとて身て。お小

元日。なつかおひさつてさつてさつてさつてさつてさつて。
とて。お小

猛虎云坂田丸つ追進考

坂田丸つ追進考
又今まへ
坂田丸つ追進考
又今まへ
坂田丸つ追進考
又今まへ
坂田丸つ追進考
又今まへ
坂田丸つ追進考
又今まへ
坂田丸つ追進考
又今まへ

海ふいせでえのふびなりぬ草もあつたも。たぐさ絶もな

たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな

たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな

たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな

たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな

たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな

たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな

たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな
たぐさ絶もな

いふはかざりの送れのま
 かせんせんころものまふら
 とん
 〇ふつ〜…はははははは
 わひもあ〜や〜さ〜れ〜ん〜ん
 〇〇〇〇 肩の曲〜と女奴
 おあは〜し〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん
 おふん〜ん〜ん〜ん

よ日お好〜あか〜風さみのねま〜ん〜ん〜ん
 ららやあ〜ん〜ん〜ん〜ん
 日風あげぞえま〜守ま〜は〜酒よたあ〜たい^せ
 〇〇〇〇あ〜り〜ん〜ん〜ん〜ん^{小附}
 〇〇〇〇あり抄今の〜^{附ま}
 らぞく〜け〜ん〜ん〜ん〜ん
 〇〇〇〇ま〜ら〜ん〜ん〜ん
 又日風あひぬ〜ねおお〜よあ〜人〜絶ま〜ん
 ららく

粘りのつぎでもあつたれ
 正月のころあむか〜ん〜ん〜ん
 〇〇〇〇〜ん〜ん〜ん〜ん
 附おこせたりのび〜ん〜ん
 小つれてさ〜ん〜ん〜ん〜ん
 たり〜ん〜ん〜ん〜ん
 〇〇〇〇あり抄今の〜
 〇〇〇〇あり抄今の〜
 〇〇〇〇あり抄今の〜

六日さ〜ん〜ん〜ん
 七日よなりぬお〜ん〜ん〜ん〜ん
 〇〇〇〇あり抄今の〜^{附ま}
 〇〇〇〇あり抄今の〜
 〇〇〇〇あり抄今の〜
 〇〇〇〇あり抄今の〜
 〇〇〇〇あり抄今の〜
 〇〇〇〇あり抄今の〜
 〇〇〇〇あり抄今の〜


~~~~~

おてよまのり。附とあり抄今月  
あゝんもなまひてまゝ。今はいちを思ひて。附素思ひ出てと  
あり抄今月

但し、あゝ人のよめる。抄素よたりけり。あり附今月  
あり抄今月

照月の流るるれがあらぬのらうらうら。附素思ひ

海ふざりけり。附とあり抄今月

九月。けとめて大津も。お波のともりとおんとも。

ございざり。これまた。おふふのさうひのうらうら。附素思ひ

んおらうら。人ある中。附素思ひ。あり抄今月。おふふのさうひ。

けり。めて。お波のさうひ。附素思ひ。あり抄今月。おふふのさうひ。

橘季衛長谷部行政ら。附素思ひ。あり抄今月。おふふのさうひ。

で。附素思ひ。あり抄今月。おふふのさうひ。

源と。附素思ひ。あり抄今月。おふふのさうひ。

な。附素思ひ。あり抄今月。おふふのさうひ。

か。附素思ひ。あり抄今月。おふふのさうひ。

あ。附素思ひ。あり抄今月。おふふのさうひ。

ふ。附素思ひ。あり抄今月。おふふのさうひ。

け。附素思ひ。あり抄今月。おふふのさうひ。

附とあり抄今月。おふふのさうひ。

あ。附素思ひ。あり抄今月。おふふのさうひ。





今一の...  
 二箇...  
 三箇...  
 四箇...  
 五箇...  
 六箇...  
 七箇...  
 八箇...  
 九箇...  
 十箇...

附...  
 附...  
 附...  
 附...  
 附...  
 附...  
 附...  
 附...  
 附...  
 附...

今一の...  
 二箇...  
 三箇...  
 四箇...  
 五箇...  
 六箇...  
 七箇...  
 八箇...  
 九箇...  
 十箇...

今一の...  
 二箇...  
 三箇...  
 四箇...  
 五箇...  
 六箇...  
 七箇...  
 八箇...  
 九箇...  
 十箇...

るから...  
人...  
...  
...  
...

附と...  
...  
...  
...  
...

奉る...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

有今...  
...  
...

附...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...

...  
...  
...  
...  
...





久の酒...  
 後...  
 ...

...  
 ...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...







と八皇女をいとおぼしたる  
まふ人きりたり

友今の清徳への怨をう  
ちてかきくたしむ楸か  
ほまりしゆのふんこつは  
ぬの海なるを本宮の  
らぬをうわあをいれ  
さくふんしぬお波もあ  
つと

と八皇女をいとおぼしたる  
まふ人きりたり  
と八皇女をいとおぼしたる  
まふ人きりたり

と八皇女をいとおぼしたる  
まふ人きりたり  
と八皇女をいとおぼしたる  
まふ人きりたり

くれば人の心もあはれにしうまもあはれにして今世のこをわらひ  
やしてあはれ人のよめもあはれ

みよまわてはのめふく月をしのほろふりいで  
流よこせしし

舟一舟のめをうりふおしよ附赤母のせせあしおのせ

色をいれしよの海はぬの本のまぬぬのあはれ

とあしおのめおぼろけの糸ひよよまてあはれしぬま  
いよよひよのめいこもあはれいよよにににては

てらうまもあはれしぬまの附赤母のせせ抄ま今の

程こせよぬらうのあはれしぬまのあはれ

あはれしぬまのあはれしぬまのあはれしぬま

あはれしぬまのあはれしぬまのあはれしぬま

あはれしぬまのあはれしぬまのあはれしぬま

あはれしぬまのあはれしぬまのあはれしぬま

あはれしぬまのあはれしぬまのあはれしぬま

あはれしぬまのあはれしぬまのあはれしぬま

土佐日記

十九

抄の因果経のての世のむ  
くやくとあつていこうるま  
こつとあつていこうるま  
こつとあつていこうるま  
こつとあつていこうるま  
こつとあつていこうるま

いれおのれおのれおのれ  
すまのれおのれおのれ  
おのれおのれおのれ  
おのれおのれおのれ  
おのれおのれおのれ

あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま

あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま

あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま

あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま

あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま

あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま

あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま

あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま

あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま

あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま

あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま  
あつていこうるま



日曜のぞくははる小あ〜が  
昔書小皇帝の同じ皇帝の  
を〜の〜の〜の〜の〜の  
を〜の〜の〜の〜の〜の  
を〜の〜の〜の〜の〜の  
を〜の〜の〜の〜の〜の

はま〜の〜の〜の〜の〜の  
はま〜の〜の〜の〜の〜の

廿七日 風が吹いて冷あ〜くはるが  
か〜風が吹いて冷あ〜くはるが  
か〜風が吹いて冷あ〜くはるが  
か〜風が吹いて冷あ〜くはるが  
か〜風が吹いて冷あ〜くはるが  
か〜風が吹いて冷あ〜くはるが  
か〜風が吹いて冷あ〜くはるが  
か〜風が吹いて冷あ〜くはるが  
か〜風が吹いて冷あ〜くはるが  
か〜風が吹いて冷あ〜くはるが

廿八日 雨があ〜くはるが  
廿九日 雨があ〜くはるが  
三十日 雨があ〜くはるが  
三十一日 雨があ〜くはるが  
三十二日 雨があ〜くはるが  
三十三日 雨があ〜くはるが  
三十四日 雨があ〜くはるが  
三十五日 雨があ〜くはるが  
三十六日 雨があ〜くはるが  
三十七日 雨があ〜くはるが

う〜の〜の〜の〜の〜の

子の日曜のぞくははる小あ〜が  
おが〜の〜の〜の〜の〜の  
おが〜の〜の〜の〜の〜の  
おが〜の〜の〜の〜の〜の  
おが〜の〜の〜の〜の〜の

おが〜の〜の〜の〜の〜の  
おが〜の〜の〜の〜の〜の  
おが〜の〜の〜の〜の〜の  
おが〜の〜の〜の〜の〜の  
おが〜の〜の〜の〜の〜の

廿八日 雨があ〜くはるが  
廿九日 雨があ〜くはるが  
三十日 雨があ〜くはるが  
三十一日 雨があ〜くはるが  
三十二日 雨があ〜くはるが  
三十三日 雨があ〜くはるが  
三十四日 雨があ〜くはるが  
三十五日 雨があ〜くはるが  
三十六日 雨があ〜くはるが  
三十七日 雨があ〜くはるが  
三十八日 雨があ〜くはるが  
三十九日 雨があ〜くはるが  
四十日 雨があ〜くはるが  
四十一日 雨があ〜くはるが  
四十二日 雨があ〜くはるが  
四十三日 雨があ〜くはるが  
四十四日 雨があ〜くはるが  
四十五日 雨があ〜くはるが  
四十六日 雨があ〜くはるが  
四十七日 雨があ〜くはるが  
四十八日 雨があ〜くはるが  
四十九日 雨があ〜くはるが  
五十日 雨があ〜くはるが

土佐日記

。廿三



家一日よりぞれは十日あるより九日よるものなり。  
今ハ和泉のくちまわも海ごへ物もいへば

二月朔日。あつたの海もやう。午の時よりよやむれは

和泉のまじもくもあつた。よこも海へいへば

ごくに海はあつた。よこも海へいへば

悪く。松乃もくもく。後の浪ハあつた。よこも海へいへば

指みてみいあふ。今一いあつた。ねけあひじよか

たこの浦といふ。網もくもく。あつた。よこも海へいへば

あつたのよこも海へいへば

あつたのよこも海へいへば

あつたのよこも海へいへば

あつたのよこも海へいへば

あつたのよこも海へいへば

あつたのよこも海へいへば

あつたのよこも海へいへば

あつたのよこも海へいへば

よこも海へいへば  
あつたのよこも海へいへば  
あつたのよこも海へいへば  
あつたのよこも海へいへば  
あつたのよこも海へいへば  
あつたのよこも海へいへば  
あつたのよこも海へいへば  
あつたのよこも海へいへば

えいごのあひだいへんご  
あひだいへんごのあひだい  
あひだいへんごのあひだい  
あひだいへんごのあひだい  
あひだいへんごのあひだい

あひだいへんごのあひだい  
あひだいへんごのあひだい  
あひだいへんごのあひだい  
あひだいへんごのあひだい  
あひだいへんごのあひだい

あひだいへんごのあひだい  
あひだいへんごのあひだい  
あひだいへんごのあひだい  
あひだいへんごのあひだい  
あひだいへんごのあひだい

あひだいへんごのあひだい  
あひだいへんごのあひだい  
あひだいへんごのあひだい  
あひだいへんごのあひだい  
あひだいへんごのあひだい

あひだいへんごのあひだい  
あひだいへんごのあひだい  
あひだいへんごのあひだい  
あひだいへんごのあひだい  
あひだいへんごのあひだい





今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ

今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ

今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ

今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ

今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ  
 今更に此の事ハ



うらやまのこころは

おのゝこころをさぐりて  
たぐひし人のこころ  
小八巨子とわたり

いづれよあはれむ。目もくはく。鏡も神の心  
をこそ見よ。建櫃と申の心は神の心なる也。抄々たる  
六日。み<sup>季</sup>を<sup>標</sup>所<sup>の</sup>の<sup>心</sup>を<sup>も</sup>ら<sup>ひ</sup>て。鏡波の津を<sup>標</sup>来<sup>て</sup>  
河原よいづれむ。人々を<sup>標</sup>い<sup>て</sup>も<sup>ら</sup>ひ<sup>て</sup>。抄女おこる所あり  
神といふを<sup>標</sup>あ<sup>て</sup>て。鏡波と申す。これ<sup>標</sup>あ<sup>は</sup>れ<sup>む</sup>  
の。清波の<sup>標</sup>あ<sup>は</sup>れ<sup>む</sup>。おのゝこころ<sup>標</sup>あ<sup>は</sup>れ<sup>む</sup>。と<sup>標</sup>い<sup>ふ</sup>。を<sup>標</sup>も<sup>ら</sup>ひ<sup>て</sup>  
びて。船<sup>標</sup>あ<sup>は</sup>れ<sup>む</sup>。を<sup>標</sup>も<sup>ら</sup>ひ<sup>て</sup>。まづ附のしげきと  
とある抄今のしげき  
いづ

いづれよあはれむ  
目もくはく  
鏡も神の心

病者をまよふや  
飯もつたれど  
うらやまのこころ

いづれよあはれむ。目もくはく。鏡も神の心  
をこそ見よ。建櫃と申の心は神の心なる也。抄々たる  
六日。み<sup>季</sup>を<sup>標</sup>所<sup>の</sup>の<sup>心</sup>を<sup>も</sup>ら<sup>ひ</sup>て。鏡波の津を<sup>標</sup>来<sup>て</sup>  
河原よいづれむ。人々を<sup>標</sup>い<sup>て</sup>も<sup>ら</sup>ひ<sup>て</sup>。抄女おこる所あり  
神といふを<sup>標</sup>あ<sup>て</sup>て。鏡波と申す。これ<sup>標</sup>あ<sup>は</sup>れ<sup>む</sup>  
の。清波の<sup>標</sup>あ<sup>は</sup>れ<sup>む</sup>。おのゝこころ<sup>標</sup>あ<sup>は</sup>れ<sup>む</sup>。と<sup>標</sup>い<sup>ふ</sup>。を<sup>標</sup>も<sup>ら</sup>ひ<sup>て</sup>  
びて。船<sup>標</sup>あ<sup>は</sup>れ<sup>む</sup>。を<sup>標</sup>も<sup>ら</sup>ひ<sup>て</sup>。まづ附のしげきと  
とある抄今のしげき  
いづ





Handwritten text in a cursive script, likely a diary entry. The text is written vertically on the right page of the notebook. It consists of approximately 10 lines of text, with some characters appearing to be in a different script or dialect. There are some small annotations or corrections written above certain lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a diary entry. The text is written vertically on the left page of the notebook. It consists of approximately 10 lines of text, with some characters appearing to be in a different script or dialect. There are some small annotations or corrections written above certain lines.

ついでに...  
...

正...  
...

い...  
あり...  
色...

...

ナ...  
...

ナ...  
...

ナ...  
...

ひ...  
...

あ...  
...

附...  
...

ナ...  
...

よ...  
...

あ...  
...

ち...  
...

ナ...  
...

これ...  
...

し...  
...

ぞ...  
...







えんげんしんせうのきりかへ  
のしんせうしんせう

350

見しんせうのしんせう  
のしんせうのしんせう  
のしんせうのしんせう  
のしんせうのしんせう

去依水記

市園翁著  
校註去依水記追考 全

文政三年 辰冬

# 書林

京都 出雲寺文治郎  
大坂 河内屋太助  
江戸 前川六左衛門  
名古屋本町拾丁目  
松屋善兵



えんくわん...  
の...  
...

350

見入るの...  
...  
...

去依水記

市園翁著  
校註去依水記追考 全

文政三年 辰冬

# 書林

京都 出雲寺文治郎  
大坂 河内屋太助  
江戸 前川六左衛門  
名古屋本町拾丁目  
松屋善兵衛



去依日記

